Tour Taiwan 旅行台湾・感動100

特集・台湾

旅行台湾・感動100で誘客 台日相互交流も拡大へ

台湾観光局は今年、外国人旅行者の誘致キャンペーンを新しいスローガン「旅行台湾・感動100」のもとでスタートさせた。さらに今年から2年間は、日台間の観光交流を相互に促進する「台日観光交流年」として、日本の観光関係者と連携してさまざまなプロモーションに取り組む。新たな展開を迎え、今年4月、台湾観光協会の東京事務所長に黄怡平氏が就任した。今回は黄所長にお話を伺うとともに、台湾観光のトピックスを紹介する。

台湾観光協会 東京事務所 黄 怡平所長に聞く

「台日観光年」に注力 女性客の誘致も促進

4月5日付で台湾観光協会東京事務所の所長に黄怡平氏が着任した。台湾の交通部観光局に入局して以来、海外市場に向けた宣伝プロモーションに数多く携わり、2009年5月に台湾観光協会大阪事務所長に就任。大阪での10カ月間を経て、東京事務所長に就いた。黄所長に抱負や展望を聞いた。

□　□

――着任して約2カ月ですね。東京事務所はいかがですか。

黄　前任の江所長（江明清氏＝現・台湾・交通部観光局国際組長）が7年の在任期間の間に基礎を築いてくれました。観光宣伝の仕事は、担当者から担当者へ、関係者から関係者へと駅伝のようにリレーしていくもの。日本からたくさんの旅行者を台湾にお迎えできるよう私もがんばらなければいけないと思いを新たにしています。今年は、観光誘致の新しいスローガン「旅行台湾・感動100」のもとでキャンペーンの展開を始めましたし、ちょうど今年から2年間は「台日観光交流年」です。日本の観光各界の方々と連携して成果が上がるようにしていきたいと考えています。

――台湾の観光政策の動きは。

黄　日本と同様に、台湾も観光産業を重視しています。産業振興の柱の1つが観光で、エリア別の観光振興策などを策定したところです。エリア別のテーマでは、北部は「生活と文化」、中部は「ファッションと産業」、南部は「歴史と海」、東部は「スローライフ」、離島は「独自の文化」と打ち出しています。観光産業の発展は、台湾の発展を担っており、高いポテンシャルを持っていると認められています。観光予算も拡充の方向です。

――東アジアの観光市場では中国への注目が高まっていますが、台湾にとって日本というマーケットの位置づけに変化は。

黄　日本はこれまでと変わらず大切な市場と考えています。台湾と日本の間には歴史や文化の深いつながりがあります。台湾の人は日本にとても好感を持っていますし、お互いに心の絆があるのではないでしょうか。日本という市場の重要性は今後も変わりません。

――日本に向けたプロモーションは。

黄　02年に台湾観光局の観光イメージキャラクターをタレントの渡辺満里奈さんにお願いしたあたりから、観光宣伝のスタイルが新たな展開になってきました。08年以降は、F4、飛輪海（フェイルンハイ）と台湾の人気男性アイドルグループを起用しています。台湾の新しい魅力を紹介してくれた渡辺さんやアジアで人気の高い男性アイドルを起用した成果として、台湾の観光イメージも大きく変わったと思います。ここ数年日本からの旅行者も若い女性層が増えてきました。

――訪台日本人旅行者の男女比は。

黄　09年には100万人の日本人が台湾を訪れましたが、女性の比率は伸びて、41・2％に達しました。かつては男性客が中心で20年前の女性の比率は20％ほど、02年でも34・6％でした。リーマンショックなど世界的な景気後退の影響でビジネス客が減少したという要因はありますが、女性が台湾の旅行市場を支えたことは間違いありません。

――黄所長は、大阪事務所長時代から女性層の誘致に力を入れてこられたと聞きましたが。

黄　日本の旅行会社さんに女性向けの旅を企画してもらったり、女性に支持されている雑誌やフリーペーパー、テレビ番組などに情報を発信してもらったりしました。

――関西では電車の女性専用車両だけにラッピング車両広告を展開するという斬新な宣伝手法も手がけられたとか。

黄　限られた宣伝予算を効率的に使いました（笑い）。でもターゲットを絞って、効果的な手法でプロモーションを行うのは重要なことですね。

――どのような魅力を日本の若い女性に知ってほしいですか。

黄　グルメや茶芸、温泉、エステ、ファッション、ショッピングなど、台湾には癒しがあって、リラックスできます。日本の女性もそうだと思いますが、台湾の女性も美容への関心がとても高い。最近では紹興酒の酒かすを使ったフェイスパックなども話題です。次々に新しいサービスが出てきますので、そうした細かな最新情報も発信していきたい。何より台湾は日本から近くて治安も良いですし、片意地はらずに旅行を楽しめ、1人旅でもさみしくないと思います。もちろん男性や年配のお客さま、あらゆる世代の男女に来ていただけるようにプロモーションを展開します。でも、ここまで伸びてきたのだから、他の階層を伸ばしつつ、女性の比率を50％にまで引き上げたいと考えています。

――今年のキャンペーンスローガン「感動100」の展開は。

黄　09年に台湾を訪れた外国人旅行者は440万人で14・3％増と高い伸びを示しました。2010年の目標は480万人に設定しています。観光客誘致は国際競争ですし、世界的な経済の影響なども受けますが、台湾の魅力については自信を持っています。感動100のビジョンは、初めて訪れる方も、何度も訪れている方も新たな発見と100％の感動を味わってもらえる台湾ということです。さまざまな観光素材をPRして、台湾には感動があり、フレンドリーなおもてなしがあるというイメージを広めていきたいと思います。各種媒体やホームページを通じた情報発信のほか、MRTの乗車券や特産品引換券、故宮博物院の無料券など旅行者に対するお得なプレゼントキャンペーンも引き続き実施しています。

新しい観光素材としてはサイクリングやグルメなどの旅行テーマも打ち出していきますし、台湾茶や夜市をテーマにした新しいイベントも開催します。さらに今年11月には、台北花博が開幕します。日本の年配の方は、花をテーマにした旅行に関心が高いようですから、従来の観光素材に加えて、付加価値のある台湾観光をPRする大きなチャンスと捉えています。

台湾観光協会 東京事務所長　**黄 怡平氏**　1982年、交通部観光局（台湾）入局。桃園国際空港旅客センター、秘書室に勤務。同局国際部国際観光業務、観光局長秘書室などを経て、2009年5月に台湾観光協会大阪事務所長。日本をはじめ欧米市場などに向けた多くの海外プロモーションに携わり、台湾での各種大型観光イベントの開催や海外市場調査など各種業務に幅広く取り組んできた観光局のエキスパート。

観光イベントに飛輪海

5月9日、台湾北東部にある福隆ビーチで開催した旅行台湾・感動100特別観光イベントには、飛輪海のメンバーが出演し、日本を中心に韓国、香港などから訪れたファンを楽しませた。総勢1000人で台湾グルメや合同天燈上げなどのプログラムを体験した。今秋には第2弾の開催も予定しているという。　©台湾観光局

旅行会社との連携強化 商品の造成・販売を支援

――台日観光交流年への取り組みは。

黄　双方の観光界が連携を強化すれば、台日観光交流年の目標である相互に合わせて300万人の交流人口も必ず達成できると思います。日本観光協会さんと連携して観光交流年をPRするウェブサイトを開設し、相互訪問を盛り上げます。旅フェアや旅行博への出展はもちろん、台湾と日本の地方都市との交流も盛んになってきましたので、地方の祭りやイベントにも参加してプロモーション活動を展開していきたい。

先ほど若い女性が増えてきたと申し上げましたが、教育旅行の誘致にも力を入れていて、台湾に来ていただける学校が年々増えています。台日の学校間交流などにも発展しています。台日相互にワーキングホリデーの制度もでき、ますます青少年の交流が盛んになっていくと期待しています。台湾、日本の若い世代がお互いを身近に感じてくれれば、相互理解が深まり、観光市場拡大にもつながりますね。

このほかにもチャーター便の運航などが活性化してきて、観光交流の拡大への基盤はできてきました。今年10月末には松山空港（台北）～羽田空港（東京）間に定期チャーター便も就航します。ビジネス客の往来、地方間の交流も便利になるかもしれません。運航開始に向けてプロモーションを練っているところです。

――日本の旅行会社との連携についてのお考えは。

黄　旅行会社さんによって顧客や得意分野も違いますから、台湾側に期待するプロモーションや支援施策も異なってきます。それぞれの特性に応じてお手伝いできれば一番いいと思います。旅行会社さんのマーケティングやキャンペーンに応じた情報提供や支援施策を考えていきます。これまで通りパンフレット作成やチャーター便運航への補助、インセンティブツアーの送客に対するアトラクションの提供などの支援措置は実施していますし、昨年9月に世界的な景気後退への対策として導入した緊急の特別奨励プログラムも継続が決まり、予算を拡充して来年まで実施することになりました。

そして旅行会社の担当者や若手社員の方々に台湾の観光魅力をより知ってもらえるよう、ファムツアーなども計画していきます。旅行会社の方を対象に「台湾トラベルアドバイザー」の認定なども行っていますので、ご活用いただけたらと考えています。台湾商品の造成や販売を支援し、そして送客していただければ、旅行者には100％の感動、100％の満足を持ってもらえるように努力していきたいと考えています。

――日本の観光関係者にメッセージを。

黄　台日観光交流年を成功させるためには日本観光界の皆さまのご協力なくては成し遂げることができません。台日関係者が互いの力を合わせれば、相互交流はさらに拡大して、ツーウェイ・ツーリズムで理想的な成果を上げていくことができると信じています。

また、台湾は2011年に記念すべき100周年を迎えます。観光局ではこの重要な節目の年に向けて、台湾全土を挙げてさまざまな特別イベントや観光プログラムの準備を推し進めていきますので、こちらへのご協力もお願いします。台湾観光局、台湾観光協会は今後も一丸となって、「感動100」のスローガンのもと、皆さまにご満足いただけるような台湾観光の魅力をアピールしていく所存ですので今後ともご協力、ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

2009年台湾人旅行者の主な訪問先

訪問先	人数	前年比(%)
香港	2,261,001	−20.7
中国	1,516,087	703.3
日本	1,113,857	−15.0
マカオ	739,263	−20.2
米国	415,465	−19.4
韓国	388,806	7.1

※台湾人の出国者総数は814万2946人

日本人は7.9％減 中国からは2倍増

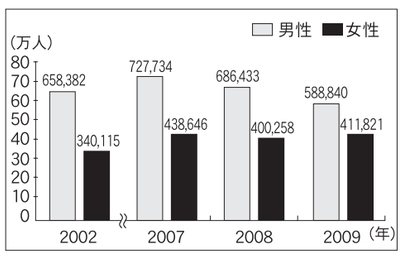
2009年の訪台外国人旅行者数

2009年主要国の訪台旅行者数

国・地域	人数	前年比(%)
日本	1,000,661	−7.9
中国	972,123	195.3
香港・マカオ	718,806	16.2
米国	369,258	−4.6
シンガポール	194,523	−5.3
韓国	167,641	−33.6

※訪台外国人旅行者の総数は439万5004人

訪台日本人旅行者の男女比



台湾観光局によると、09年の訪台外国人旅行者数は、前年比14・3％増の439万5千人だった。世界的な景気後退などで国際観光市場が低迷する中、中国との観光交流が本格化したため大幅な伸びにつながった。日本人の訪台旅行者数は同7・9％減の100万人だった。

日本人以外の訪台外国人旅行者を国別にみると、中国が195・3％増の97万2千人、香港・マカオが16・2％増の71万9千人、米国が4・6％減の36万9千人などだった。

一方で、台湾人出国数は3・8％減の814万3千人。訪問先別で日本は、円高や新型インフルエンザの発生を受けて15・0％減の111万4千人。マイナス基調が続いたが、12月にようやくプラスに転じた。大幅に伸びた訪問先は中国で703・3％増の151万6千人。このほか香港は20・7％減の226万1千人などだった。

観光トピックス

台北花博まで5ヵ月 多彩な展示とイベント

2010臺北國際花卉博覽會 TAIPEI INT'L FLORA EXPO

今年11月6日～来年4月25日の約半年間、台北市で開かれる台北国際花博覧会（台北花博）の開幕まであと5カ月となった。会場の整備も順調に進んでおり、展示内容の詳細な情報も公式ウェブサイト（www.2010taipeiexpo.tw、日本語版あり）などを通じて紹介している。

台北市の中央部に位置する展示会場は、圓山公園、美術公園、新生公園、大佳河浜公園の4エリアで構成。敷地面積の合計は約92㌶に及ぶ。

圓山公園エリアには、圓山公園花海区、トレンド館、美の競艶館、果樹園区がある。圓山公園花海区は約2・2㌶の緑地を美しい花々が埋め尽くす。美の競艶館は中山サッカー場を舞台に国際インドアフラワーアートコンテスト展示館を開設。トレンド館では、花をテーマにしたイベント、ファッションやデザインに関するショーを行う。

美術公園エリアは、舞蝶館、世界庭園エリア、アロマ館で構成する。「花、蝶、グリーンライフ」をテーマにした舞蝶館は、花博の開会式にも使われる会場で、世界各地の文化芸術の公演が広場で披露される。世界庭園エリアは1・2㌶の敷地を35ブロックに分け、世界各地の団体や都市が展示を行う。

新生公園エリアは、大規模温室がある未来館、デジタルや電子センサーをはじめ最先端技術を駆使した展示を行う生活館やドリーム館、花々が咲き誇る花のトンネルなどがある。太陽光発電など環境に配慮した施設にも注目だ。

基隆川沿いに広がる大佳河浜公園エリアは、水とレクリエーションがテーマ。台湾原生種の植物と花の展示を行うほか、劇場形式で観賞できるウォーターステージでの各種ショー、夜間はライトアップや花火が観賞できる。

台日観光交流年のウェブサイト開設

キャラクターの愛称募集も

台湾観光協会、日本観光協会、日本旅行業協会は28日、今年から2年間にわたる台日観光交流年をPRする公式ウェブサイト（http://www.nihao-konnichiwa.com）をオープンさせた。相互交流の目標である年間往来300万人の実現に向けて、台湾、日本双方の観光交流にまつわる情報を発信していく。

ウェブサイトでは、日本観光、台湾観光にまつわる最新ニュースやイベント、観光スポットに関する情報などを随時掲載していく。

同時にキャラクターの愛称募集も行う。観光交流年のロゴマークは、それぞれの国を代表する花として、台湾の梅、日本の桜があしらわれているが、この花をモチーフにしたキャラクターを発表し、愛称を日台双方から公募することにした。採用者や応募者にはプレゼントもある。

テーマパークの入場券を訪台旅行者にプレゼント

台湾観光局

台湾観光局はこのほど、「旅行台湾・感動100」プロモーションの一環として、訪台旅行者に対するプレゼントキャンペーンの第2弾、テーマパークの入場無料券の配布を開始した。

無料券を利用できるのは、小人国（桃園県）や六福村（新竹県）など台湾各地の19施設で、利用期限は8月31日まで。第1弾としてプレゼントしている台北MRT乗車券と故宮博物院の無料参観券と合わせて入手できる。

プレゼントを入手するには旅行前に申請する必要がある。問い合わせは、台湾観光協会の東京事務所、大阪事務所まで。

2010-2011 台日観光交流年 TAIWAN-JAPAN Tourism Exchange Year

台湾観光局

http://jp.taiwan.net.tw

台湾観光協会

東京事務所

〒105−0003
東京都港区西新橋1丁目5−8川手ビル3F
電話03・3501・3591
FAX03・3501・3586

大阪事務所

〒530−0047
大阪府大阪市北区西天満4−14−3−6F
電話06・6316・7491
FAX06・6316・7398